

令和 6 年度使用
小学校教科用図書調査研究答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

目 次

国 語	1
書 写	3
社 会	5
地 図	7
算 数	8
理 科	12
生 活	15
音 楽	17
図画工作	19
家 庭	20
保 健	21
英 語	23
道 徳	26

令和6年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	国語
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(国語) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標を教材文の導入ページ「言葉の力」に示している。 語彙を豊かにするために、「言葉の広場」(第2学年)では、学校や家、町や村にあるものの名前、みちかな人やもののように、人の体や人がすること、性格を表す言葉を多く示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 全単元共通して、単元冒頭の「見通す」で、単元で身につけたい「言葉の力」と学習の流れを見開き(または片面)紙面で示している。 「振り返る」では、「言葉の力」を確かめて振り返る問いかけとなっている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」の単元と「書くこと」の単元の間、小単元「情報のとびら」を配置し、両単元を関連させる学習を設定している。 伝統と文化に関する内容の記述について、6年間の単元等数は32(第1・2学年 8 第3・4学年 12 第5・6学年 12)となっている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 「身に付けたい力・学習すること」として、第2学年以上で、巻頭に「言葉の力を集めよう」と提示し、「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域に分け、各単元で身に付けたい力を一覧で示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫として、「グループでの話し合い」「クラス全体での話し合い」「グループで話し合った後、クラスで共有し、話し合う」といった各学年の発達段階に応じた話し合い活動を示している。
17 教出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標を、単元末の「ここが大事」欄に教材文を例示しながら示している。 語彙を豊かにするために、「言葉の木」(第2学年)では、ほんたいのいみ、にたいみ、ひろいことばとせまいことばを示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、学習のステップとして「学習の進め方」を単元の冒頭に示している。 「読むこと」では、「学習のてびき」を見開きで提示し、めあてと振り返りを照応させている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年以上には、「読むこと」の単元の1つにおいて、教材文を読む際の視点に気付くための導入教材を配置している。 伝統と文化に関する内容の記述について、6年間の単元等数は26(第1・2学年 7 第3・4学年 9 第5・6学年 10)となっている。

	観点4	・「身に付けたい力・学習すること」として、巻頭に「□年生で学ぶこと」と提示し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域に分け、教材名・単元名・身に付けたい力を示している。
	観点5	・考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫として、「グループでの話し合い」「クラス全体での話し合い」「ミニディベート」「パネルディスカッション」といった様々な話し合いの形態を示している。
38 光村	観点1	・各単元の冒頭に「何を」「どのように」学習するかを示すとともに、単元の目標を単元末の「たいせつ」欄に箇条書きで示している。 ・語彙を豊かにするために、「言葉のたから箱」(第2学年)では、様子や気持ちを伝える言葉を多く示している。
	観点2	・全単元共通して、「問いをもとう」「目標」の二つを示している。 ・単元の振り返り「ふりかえろう」では、学習指導要領の三つの観点に沿って自己評価できるように「知る」「読む」「書く」「つなぐ」を示している。
	観点3	・第3学年以上には、「読むこと」の単元の1つにおいて、教材文を読む際の視点に気付くための導入教材〔練習〕を配置している。 ・伝統と文化に関する内容の記述について、6年間の単元等数は42(第1・2学年 12 第3・4学年 15 第5・6学年 15)となっている。
	観点4	・「身に付けたい力・学習すること」として、第2学年以上で、巻頭に「言葉の力を集めよう」と提示し、「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域に分け、各単元で身に付けたい力を一覧で示している。
	観点5	・考えを伝えるなどして話し合う活動の工夫として、第3学年以上で学年ごとにテーマ議題や班やグループ、クラス全体の話し合いの仕方を具体的に提示し、話し合い活動の充実を図っている。また、テーマ議題については、児童にとってより身近な議題となっている。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	書写
第1推薦	38 光村
第2推薦	2 東書

(書写) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標の示し方では、比較検討するための教材を掲載し「～はどちらだろう」「どのように変えているだろう」のように課題解決的な問いかけをする目標が設定されている。 姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計63P掲載されている。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程を「見つけよう→たしかめよう→生かさよう→ふり返ろう→生活に広げよう」とし、どのように学ぶかを明確に示し、「書写のかぎ」をキーワードに課題解決的な学習展開になっている。 ふり返りを中心に友達と話し合う活動を取り入れている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が36P、伝統的な言語文化に関する内容が9P、合計45P掲載されている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 硬筆では、筆順のきまりをオレンジ色の矢印とそれにあたる部分をピンク色で、筆順を赤数字で示している。下部分に、上段で取り上げた漢字の書き込み欄を設けている。同じ原則で書く漢字を3文字ずつ2組例示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 「生活に広げよう」「文字といっしょに」「学びを生かさよう」という単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて54ある。
17 教出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標の示し方を「めあて」とし、「～しよう」と呼びかけの目標で明確に示されている。 姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計50P掲載されている。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程を「つかむ・考える→書く・たしかめる→ふり返る→生かす・広げる」とし、自分の書いた文字と教材を比較・検討し、気付いたことを生かして書く構成になっている。 ふり返りで相互評価を取り入れている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が42P、伝統的な言語文化に関する内容が11P、計53P掲載されている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 硬筆では、筆順を黒数字で示し、書き順のきまりにあたる部分を赤で示している。下部分に新出漢字の筆順を黒数字で示している。書き順のきまりを2回示している。同じ原則で書く漢字や、カタカナの筆順と同じ原則で書く漢字を例示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」の単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて49ある。

38 光村	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標の示し方では、比較検討するための教材を掲載し「情報が伝わりやすいのはどちらだろう」といった課題解決的な目標が設定されている。 姿勢、点画の書き方、用具の扱い方の示し方では、第1学年と第3学年で計55P掲載されている。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 文字の書き方の原理・原則を「考えよう」→毛筆で書いて「たしかめよう」→硬筆に「生かそう」の学習過程を提示している。 友達と話し合ったり「たいせつ」を手掛かりにしたりして課題解決的な学習をすすめられる構成となっている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 伝統と文化に関する内容の記述において、全学年で、書写の歴史に関する資料等の内容が39P、伝統的な言語文化に関する内容が9P、計48P掲載されている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 硬筆では、書き順のきまりを緑色の矢印、上段筆順（決められた色）下段筆順（赤字）で示している。下部分に、上段で取り上げた漢字の書き込み欄を設けている。同じ原則で書く漢字を1組例示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 「書写広げたい」「もっと知りたい」「書写ブック」などの単元を設定している。学びを生かす教材数は全学年合わせて44ある。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	社会
第1推薦	2 東書
第2推薦	116 日文

(社会) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・「つかむ」「調べる」「まとめる」等の学習過程とともに、「どのような～でしょうか。」「～しましょう。」等と問いかけの形態で記載している。
	観点2	・学習の進め方について、単元ごとに「つかむ」の後に「学習問題」を示し、見開きページごとに問いを提示しながら「調べる学習」を進め、学習問題について調べてわかったことを整理し、「まとめる」というページを設けている。単元によっては、単元末に、学習したことを次の学習や生活に「いかす」、学習したことをもとに、他の学習に「ひろげる」という構成で示している。
	観点3	4年 自然災害からくらしを守る 【大単元の導入(2)、風水害(16) ※発展：地震(2)、火山災害(2)】 ・風水害に備えた家庭での自助の取組について調べている。 ・風水害から私たちの暮らしを守る取組を、ノートに図でまとめている。 ・マイ・タイムラインを作成し、風水害に備えて、自分たちにできる取組を考え、発表している。
	観点4	・「まなび方コーナー」では、「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・伝える」などの観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。
	観点5	・6年 単元末の「まとめる」の場面や、単元後の「いかす」の場面において、「説明しよう」「話し合おう」「発表しよう」などと提示し、学習した内容を活用し、歴史上の主な事象や社会的な事象について説明や話し合いの活動を設けている。
17 教出	観点1	・「つかむ」「調べる」「まとめる」等の学習過程とともに、「どのような～だろう。」「～には、どうすればよいだろう。」等と記載している。
	観点2	・学習の進め方について、単元ごとに「つかむ」の後に「みんなで作った学習問題」を示し、見開きページごとに問いを提示しながら「調べる学習」を進め、学習問題について調べてわかったことを整理し、「まとめる」というページを設けている。単元によっては、自分の生活に生かす「つなげる」、単元末に資料として「もっと知りたい」という構成で示している。

	観点3	<p>4年 自然災害から人々を守る活動</p> <p>【大単元の導入（2）、地震災害・津波災害（16） ※選択：水害（12）、火山災害（2）、雪害（2）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難地や津波避難タワーを取り上げ、地震や津波に備えた施設や設備を調べている。 ・自治会の人や地域の話から、夜の避難訓練や岩手県の取組等、地震や津波に備えた取組を調べている。 ・地震や津波に備えた取組をまとめ、これからの生活に生かすための標語を作っている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びのてびき」には「集める」「読み取る」「表す」の観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・6年 単元末の「まとめる」の場面や、単元後の「つなげる」の場面において、「説明しよう」「話し合おう」「発表しよう」などと提示し、学習した内容を活用し、歴史上の主な事象や社会的事象について説明や話合いの活動を設けている。
116 日文	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・「どのような～だろう。」「～は何だろう」等と記載している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに「学習問題」を示し、「問い」を提示しながら調べる学習を進め、これまで学習してきたことを基に、考えたことや調べたことを表現する活動を設定している。単元によっては、単元末に児童が調べたいことや気になったことを取り上げる「未来へつなげる」というページを設けている。
	観点3	<p>4年 自然災害から人々を守る活動</p> <p>【大単元の導入（2）、風水害（18） ※選択：地震災害（6）、津波災害（6）、火山災害（4）、雪害（2）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所や消防署、警察署の話から、風水害等の災害時の対応について調べている。 ・避難所運営訓練を取り上げ、災害に備える取組を調べている。 ・災害に備えて自分たちにできることを考えてスライドにまとめ、その取組を発表している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び方・調べ方コーナー」を「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・6年 単元末や単元後の「日本の歴史の学習を終えて」の場面において、学習したことをまとめたノート例や児童が話し合っている様子をイラストで示し、学習した内容を活用し、歴史上の主な事象や社会的事象についての説明や話合いの活動を設けている。

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	地図
第1推薦	46 帝国
第2推薦	2 東書

(地図) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・二次元コードが掲載してあり、日本や世界の白地図がダウンロードできたり、日本の特徴ある地形について説明した動画を視聴したりすることができるようになっている。
	観点2	・地図学習の導入として、「空からまちを見てみよう」で、イラストマップや地図を用いて地図の仕組みを紹介している。
	観点3	・日本とその周りを見渡す地図に始まり、日本の地方図と都市圏図、世界全図、世界の各地方図、資料地図、統計表、索引の順で配列している。
	観点4	・ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を高めるために、白色で縁取りをしている。
	観点5	・「日本の自然災害」で、ハザードマップを示し、自分の地域のハザードマップで確認する点について掲載し、表現する活動に取り組む際の視点を示している。
46 帝国	観点1	・二次元コードが掲載してあり、各都道府県のテーマごとの地図や日本や世界の統計地図を閲覧したり、地図の成り立ちについて説明した動画を視聴したりすることができるようにしている。
	観点2	・地図学習の導入として、「地図の世界へようこそ」「地図ってなんだろう」で、イラストマップや航空写真、地図を用いて地図の仕組みを紹介している。
	観点3	・日本の複数の地方を広く見渡す地図に始まり、日本とその周りを見渡す地図、日本の地方図と都市圏図、世界全図、世界の各地方図、資料図、統計、索引の順で配列している。
	観点4	・ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を高めるために、縁取りを付けている。
	観点5	・「日本の自然災害と防災(2)」の「防災マップづくり」で、地図を使ったまとめ方のヒントや手順を示すとともに、地図の作品の例を掲載し、表現する活動の例を示している。

令和6年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	算数
第1推薦	2 東書
第2推薦	17 教出

(算数) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も繰り返して取り組みながら定着させることや、既習を生かして考えることができる構成になっている。 ・4年「2けたでわるわり算」では、既習を生かしながら、解き方の手順を丁寧に指導できるよう、スモールステップで問題を取り上げている。また、二次元コードでわり算の筆算の解き方も確認できるようになっている。1～3年においても、バランスよく問題数が設定されており、学習のスパイラルが意識されている。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・対話により既習、未習に着目させ、単元の学習課題をつくる「単元プロログ」がある。(1P) ・対話により、単元全体の学習を振り返り、価値づけたり、次の学習を創出したりする「つないでいこう算数の目」がある。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・6年のみ1冊で他の学年は2冊。1年①をA4判中綴じとし、ノート機能を持たせたりブロックを置きやすくしたりしている。6年間のページ数・単元数、6年発展的な学習内容の記述ページ数とも少ないが6年で433gと軽い。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・6年「Dデータの活用」において、ドットプロット、ヒストグラム、人口ピラミッド、棒グラフ、折れ線グラフ、列車の運行状況や荷物の配達料金をグラフで表示し、多様なグラフを取り上げている。デジタルコンテンツ数は多い。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の特設ページ「学びのとびら」内で、「問題をつかもう」「自分の考えをかき表そう」「友だちと学ぼう」「ふり返ってまとめよう」の4つの活動の流れを例示している。また、複数の単元ページでも側注に活動を促すガイド文を示している。 ・特設ページ「算数マイノートをつくろう」「算数マイノートを学習に生かそう」を設け、児童のノートを例示し、書き方のポイントや学習感想の視点を示している。

4 大日本	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の確認をし、知識・技能を定着させることに配慮している。4年「2けたでわるわり算」では、商が小さすぎた時、大きくしていく場合についても取り上げている。 たしかめ問題には、用語や計算の仕方を確認できる「しっかりチェック」を設けている。1～3年においても、数の構成や計算の練習問題の数が充実している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> イラスト等の場面から、問題や疑問を見いだす「新しい学習がはじまるよ」がある。(1P) 興味・関心を高めたり、算数が社会で生かされていることを実感したりできる「ふくろう先生のならほど算数教室」がある。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 1年¹のみA4判中綴じとし、ノート機能を持たせたりブロックを置きやすくしたりしている。1年は2冊、2年以上は各学年1冊としている。標準授業時数から配当時数を引いた予備時数が多い。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> キャラクターに、ラビちゃん(うさぎ)とふくろう先生に加え、外国にルーツを持つ2人を含めた6人の児童を登場させている。6年Dデータの活用において、いろいろなグラフの特徴を1ページにまとめて比較している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の特設ページ「算数の学び方」内で、「問題をつかもう」「自分で考えよう」「学び合おう」「まとめよう 使ってみよう」「ふりかえろう」の5つの活動の流れや、話し方・聞き方のポイントを例示している。また、単元ページでも側注に活動を促すガイド文を示している。 特設ページ「ノートにまとめよう」や「ノートの書き方の例」を設け、児童のノートを例示し、書き方のポイントや振り返りの視点を示している。
11 学図	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 児童がつまずきやすい内容を扱う場合には、段階的に理解ができるよう配慮し、無理なく知識・技能を身に付けることができるような構成を意識している。 4年「2けたでわるわり算」では、仮の商を小さくするという学習内容を2ページにわたり丁寧に取り扱っている。また、めあてを疑問形で提示している。1～3年においては、問題になる数字を考えやすいものになっている。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> イラスト等から、日常や算数の授業の中で疑問が生まれる場面、「?を発見」がある。(1P) 単元全体の学習を振り返ることにより生じた新たな問いを算数の世界を広げる「つなげたいな」がある。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 全学年AB判2冊としており、重量がある。6年別冊「中学校へのかけ橋」を用意している。6年間のページ数及び単元数、6年発展的な学習内容の記述ページ数も多い。標準授業時数から配当時数を引いた予備時数が多い。

	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・「まとめてみると」「きまりはあるのかな」などの算数の見方・考え方を意識させる9体のモンスターを登場させている。6年Dデータの活用において、いろいろなグラフの特徴を2ページで比較している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の特設ページ「みんなと学ぼう！算数の学び方」内で、「学びのはじめ」「今日の学び」「学びのまとめとふりかえり」の3つを単元全体の流れとして例示するとともに、側注にガイド文を示している。 ・特設ページ「ノート名人になろう」を設け、児童のノートを例示し、書き方のポイントや振り返りの視点を示している。
17 教出	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元前半で見いだした数学的な見方・考え方を、後半での学習で自ら活用していく構成になっている。 ・4年「2けたでわるわり算」では、本棚をできるだけたくさん作るという日常場面を想定した活用問題を扱い、次のページのまとめにつなげている。まとめには4コマ漫画があり、端的にポイントがまとめられている。毎時間のまとめアニメーションがあり、知識・技能のまとめを視覚化している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な題材から問題を発見し、算数の問題としてモデル化する「どんな学習がはじまるのかな？」がある。(2P) ・単元で学習したことを日常生活に活用する「学んだことを使おう」がある。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年B5判で、1・5・6年が各1冊、2・3・4年が各2冊である。6年間の単元数は少ない。標準授業時数から配当時数を引いた予備時数が少ない。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・UDデジタル教科書体を採用し、また、カラーユニバーサルデザインに対応し、識別しやすい配色を用いている。6年間のデジタルコンテンツ数は少ない。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の特設ページ「みんなが算数をはじめよう！」内で、「問題をつかむ」「自分の考えをもつ」「話し合って深める」「ふり返ってまとめる」「比べてつなげる」「広げて考える」の6つの活動の流れを例示している。また、複数の単元ページでも側注に活動を促すガイド文を示している。 ・特設ページ「友だちのノートを見てみよう」を設け、児童のノートを例示し、書き方のポイントや感想の視点を示している。
61 啓林館	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を確認し、新たな学習の基礎的な知識・技能がスムーズに習得できるような構成になっている。 ・4年「2けたでわるわり算」では、じゅんぴのコーナーとして1けたでわるわり算を確認し、既習を生かした単元構成となっている。また、計算を習熟させるための練習問題が単元中盤に入っている。1～3年においても、同様の構成であり、練習問題の数が充実している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象や既習事項から問題を見いだす「単元とびら」がある。(1P) ・単元全体を振り返り、活用したり深めたりする「たしかめよう・ふりかえろう・やってみよう」がある。

	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 1～4年を各2冊、5・6年を各1冊としている。1年「すたあと ぶつく」をA4判中綴じとし、ノート機能を持たせたりブロックを置きやすくしたりしている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> えんぴつくんのキャラクターに加え、外国ルーツや車いす・めがねを使用するなど多様な8人の児童を登場させている。グラフは色だけでなく模様でも区別できるようにし、文字情報も加えている。6年間のデジタルコンテンツ数は多い。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の特設ページ「算数のとびら 算数の学習の進め方」内で、「どんな問題かな」「自分で考えよう」「みんなで話しあおう」「たしかめよう、ふりかえろう」の4つの活動の流れを例示するとともに、側注にガイド文を示している。 特設ページ「算数ノートをつくろう」を設け、児童のノートを例示し、書き方のポイントを示している。
116 日文	観点1	<ul style="list-style-type: none"> つまずきやすい内容をもう一度ふり返り、知識・技能を定着できるような構成になっている。 4年「2けたでわるわり算」では、商の検討をつけることを「まちがいやすい問題」として、単元末に再度取り上げている。単元でのつまずきやすいところを確認し、練習問題につなげている。1～3年においても、同様の構成であり、計算の技能に関する練習問題が充実している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や既習事項を使って「おや?」と思う場面を設定し、課題発見につながる「単元アプローチ」がある。(1P) 身についた知識・技能や、これから学びたいことを子どもの言葉を通して伝える「ふり返りコーナー」がある。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> B5判で1～4年を各2冊、5・6年を各1冊としている。B5判サイズのなかでは重量がある。1年¹のみ中綴じとし、ノート機能を持たせたりブロックを置きやすくしたりしている。標準授業時数から配当時数を引いた予備時数が少ない。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 図形に使用する色を統一し、グラフや表の色は目にやさしい色使いとしている。6年「Dデータの活用」ではPPDACサイクルの扱いを、イラストを使って8ページにわたり説明している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の特設ページ「さあ、算数の学習をはじめよう！学び方の4つのステップ」内で、「どんな問題かな」「考えよう」「学び合おう」「ふり返ろう」の4つの活動の流れを例示している。また、複数の単元ページでも側注に活動を促すガイド文を示している。 特設ページ「算数ノートをつくろう」を設け、児童のノートを例示し、書き方のポイントや振り返りの視点を示している。

令和6年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	理科
第1推薦	61 啓林館
第2推薦	2 東書

(理科) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 問題をつかむための活動を設け、対話しているイラスト等を用いて、学習の視点等を示している。 「こんなところにも！理科の世界探検部」で、学習内容が実生活・実社会に関連付けられている。 観察・実験の準備物の記載がある。番号で手順を示し、写真や図等を用いて説明している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入のための写真やイラストが使われている。興味・関心を持たせるための問題の数 113 学習の進め方を巻頭の「理科の学び方」で示している。 学習の流れの中で利用できるデジタルコンテンツが用意されている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 判型 A4判 全学年のページ数 748 ページ 全学年の単元数 54 (A区分 19、B区分 35、AB区分 0) 全学年の単元以外の内容数 32
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 巻末に器具の使い方を掲載している。 問題解決の課程を、太めの黒色の実線と矢印でつないでいる。 大切な用語を黒の太字に緑色のアンダーラインにしている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程において、児童の対話を示している箇所がある。
4 大日本	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 生活や自然の中での事象・現象の写真を示し、イラストを用いて、学習の視点等を示している。 「りかのたまてばこ」において、学習内容が実生活・実社会に関連付けられている。 観察・実験の準備物の記載はないが、二次元コードで示している。番号で手順を示し、写真や図等を用いて説明している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入のための写真やイラストが使われている。興味・関心を持たせるための問題の数 91 学習の進め方を巻頭の「理科の学び方」で示している。 準備物のチェックリストをデジタル化。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 判型 A4判 全学年のページ数 860 ページ 全学年の単元数 55 (A区分 19、B区分 36、AB区分 0) 全学年の単元以外の内容数 17
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 巻末に器具の使い方を掲載している。 問題解決の課程を、ページ左のラインで示している。

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程において、机を挟んで話し合う形で児童の対話を示している箇所がある。
11 学図	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・「～しましょう。」等の呼びかけの形や「～かな」等の問い掛けの形で、問題を提示している。 ・「もっとしりたい」において、学習内容が仕事や生活に生かされている様子を掲載している。 ・観察・実験の準備物の記載がある。番号で手順を示し、写真や図等を用いて説明している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入のために写真やイラストが使われている。興味・関心を持たせるための問題の数 129 ・学習の進め方を巻頭の「科学の芽を育てよう」で示している。 ・単元はじめの「まなびリンク」で学習コンテンツを提示している。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・判型 AB判 ・全学年のページ数 812 ページ ・全学年の単元数 55 (A区分 19、B区分 35、AB区分 1) ・全学年の単元以外の内容数 24
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末に器具の使い方を掲載している。 ・問題解決の課程を、薄い色の実線と矢印でつないでいる。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程において、児童の対話を示している箇所がある。
17 教出	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の冒頭において、イラストを用いた「～かな？」等の問い掛けの形で問題を提示している。 ・「資料」や「科学のまど」において、学習内容が実生活・実社会に関連付けられている。 ・観察・実験の準備物の記載がある。番号と矢印で手順を示し、写真や図等を用いて説明している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入のための写真やイラストが効果的に使ってある。興味・関心を持たせるための問題の数 118 ・学習の進め方を巻頭の「学習の進め方」で示している。 ・本文中や巻末で調べ方に合わせた ICT 活用例を掲載。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・判型 A4変形判 ・全学年のページ数 856 ページ ・全学年の単元数 58 (A区分 20、B区分 36、AB区分 2) ・全学年の単元以外の内容数 40
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末に器具の使い方を掲載している。 ・問題解決の課程を、薄い色の実線と矢印でつないでいる。 ・大切な用語を、黒の太字に黄色の背景色にしている。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程において、教師と児童との対話を示している箇所がある。
26 信教	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・「～を調べてみましょう」等の呼び掛けの形で問題を提示している。 ・「しりょう」において、科学者の発明や学習内容が実生活・実社会に関連付けられている。 ・観察・実験の準備物の記載がある。番号で手順を示し、写真や図等を用いて説明している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入のための写真やイラストが効果的に使ってある。興味・関心を持たせるための問題の数 168 ・学習の進め方を巻頭の「理科の学習の進め方」で示している。 ・1人1台端末への対応について、二次元コードを利用した動画資料を掲載している。

	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> 判型 AB判 全学年のページ数 700 ページ 全学年の単元数 51 (A区分 18、B区分 33、AB区分 0) 全学年の単元以外の内容数 21
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の課程を、マークで設定している。 巻末では、次学年の学習内容や科学者の資料等を掲載している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> 気付きを交流する場面において、机を挟んで話し合う形で児童の対話を示している箇所がある。
61 啓林館	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> 「調べてみましょう。」等の呼び掛けの形や「～でしょうか。」等の問い掛けの形で問題を提示し、「思い出そう」で既習事項や生活の中の事象を想起させている。 「理科の広場」や「くらしとリンク」において、学習内容が実生活・実社会に関連付けられている。 観察・実験の準備物の記載がある。番号と点線で手順を示し、写真や図等を用いて説明している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入のための写真やイラストが効果的に使っている。興味・関心を持たせるための問題の数 123 学習の進め方を巻頭の「理科の楽しみ方」で示している。 巻頭に「学びの中で ICT を活用してみよう」という特設ページがあり、巻末には CBT に対応した問題を掲載している。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> 判型 AB判 全学年のページ数 792 ページ 全学年の単元数 57 (A区分 20、B区分 36、AB区分 1) 全学年の単元以外の内容数 24
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> 器具の使い方を、関連する学習内容の中で適時載せている。 問題解決の課程を、点線をつないでいる。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程において、机を挟んで話し合う形での児童の対話や、教師と児童との対話を示している箇所がある。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	生活
第1推薦	2 東書
第2推薦	17 教出

(生活) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・「いきものとなかよし」の単元において、「むしをさがそう」「むしとなかよくなるろう」「いきものずかん」「やってみよう！どうぶつのせわをしよう」という小単元を設定し、学習活動の流れを示している。
	観点2	・「うごくうごくわたしのおもちゃ」の単元の導入ページにおいて、児童がおもちゃで遊んでいる様子や考えている様子の写真と、児童の思いや発言を掲載している。
	観点3	・「どきどきわくわく1ねんせい」(13ページ)の「つながるひろがる」で、幼児期の教育との円滑な接続に関する内容を示している。
	観点4	・「!」「?」「♡」マークで、主な評価規準(「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」)を示している。
	観点5	・町探検の単元において、調べたことを伝える表現方法として、探検マップ・電子黒板・新聞・パンフレット・動画が示されている。
4 大日本	観点1	・「みんななかよし」の単元において、「いきものとなかよくなるろう」という小単元を設定している。
	観点2	・「楽しさひろがれわたしのおもちゃ」の単元の導入ページにおいて、児童がおもちゃで遊んでいる様子の写真と児童の思いや発言とイラスト、二次元コードを掲載している。
	観点3	・「たのしいよ1ねんせい」(6ページ)の「わくわくすることいっぱいだね」で、幼児期の教育との円滑な接続に関する内容を示している。
	観点4	・「せいかつことば」マークで、語彙力の向上や言語能力の育成を図る言葉を、「きらきらことば」マークで友だちとのスムーズな交流を支える言葉を示している。
	観点5	・町探検の単元で、調べたことを伝える表現方法として、地図、電子黒板、タブレット、実演、動画、ポスターが示されている。
11 学図	観点1	・「生きもの大すき」で、「なかよくなるろう」「もっとやってみたいな」という小単元を設定している。
	観点2	・「作ってあそぼううごくリサイクルおもちゃ」の単元の導入ページにおいて、児童がおもちゃで遊んでいる様子の写真や、材料の入った箱を抱えている様子とおもちゃの写真、児童の思いや発言とイラスト、リード文を掲載している。
	観点3	・「はじまるよしょうがっこう」(10ページ)の「どんなことをするのか」で、幼児期の教育との円滑な接続に関する内容を示している。
	観点4	・「学び方図かん」マークで、生活科の基本的な学習方法が分かる資料ページを参照するよう示している。

	観点5	・町探検の単元で、調べたことを伝える表現方法として、探検カード、クイズ、電子黒板、新聞、ポスター、絵本、地図、作文、巻物、が示されている。
17 教出	観点1	・「なかよくなろうね小さなともだち」で、「わくわくスイッチ」というフローチャートや「生きものをさがそう」「もっとなかよくなりたいね」「なにをかんだかな」「生きもののそだてかた」「もしも」を設定し、学習活動の流れを示している。
	観点2	・「作ってためして」の単元の導入ページにおいて、児童がおもちゃを持っている様子の写真や気持ちを話す様子や先生の写真、児童の思いや発言、フローチャートを掲載している。
	観点3	・「はじめのいっしょ」(7ページ)の「がくしゅうのはじまり」で、幼児期の教育との円滑な接続に関する内容を示している。
	観点4	・サイコロマークで、学習活動で引き出す力(気付く・自分でできる・考える・伝える・挑戦する・自信をもつ)を示している。
	観点5	・町探検の単元で、探検マップ、カード、ポスター、クイズ、紙芝居、探検マップ、動作化、オンラインでのインタビュー、電子黒板、タブレットが示されている。
26 信教	観点1	・「いきものといっしょ①」で、「かってみたいな」「きょうからいっしょ」「よるこんでくれるかな」を設定し、学習活動の流れを示している。
	観点2	・「はしれはしれ」の単元の導入ページにおいて、児童がおもちゃを見ている様子の写真を掲載している。
	観点3	・「うれしいないちねんせい」(22ページ)の「あそぼうよ」で、幼児期の教育との円滑な接続に関する内容を示している。
	観点4	・単元名の前に、単元の内容に関するマークを掲載している。
	観点5	・町探検の単元で、調べたことを伝える表現方法として紙芝居が示されている。
38 光村	観点1	・「いきものとなかよし」で、「いきものを見つけよう」「いきものとなかよくなろう」「いきものとなかよくなれたかな」「どうぶつをかおう」を設定し、学習活動の流れを示している。
	観点2	・「あそんで作ってくふうして」の単元の導入ページにおいて、児童の活動の様子の写真と、ペットボトルなどの材料の写真やイラストと、児童の思いや発言とリード文を掲載している。
	観点3	・「いちねんせいのはじまるよ」(14ページ)の「しりたいなやってみたいな」で、幼児期の教育との円滑な接続に関する内容を示している。
	観点4	・マークで、学習内容と関連する「ひろがるせいかつじてん」のページを示している。
	観点5	・町探検の単元で、調べたことを伝える表現方法として、町探検マップ、電子黒板、壁新聞、ポスター、パンフレットが示されている。
61 啓林館	観点1	・「生きもの大すき」で、「わくわくタイム見たことがある生きものはいるかな」「生きものとなかよくなろう」「やってみよう もっと生きものとなかよくなろう」「なかよくなれたことをしょうかいしよう」「大せつないのち」を設定し、学習活動の流れを示している。
	観点2	・「せかいでひとつわたしのおもちゃ」の単元の導入ページにおいて、児童が材料を選んでいる様子の写真と、ペットボトルなどの材料の写真やイラストと、児童の思いや発言、リード文を掲載している。
	観点3	・「がっこうだいすきいちねんせい」(17ページ)の「あそびがまなびにつながるひろがる」で、幼児期の教育との円滑な接続に関する内容を示している。
	観点4	・単元導入の「わくわく」、主な活動の「いきいき」、振り返りの「ぐんぐん」の3段階のマークで単元の流れを示している。
	観点5	・町探検の単元で、調べたことを伝える表現方法として、町探検マップ・電子黒板・タブレット・劇・カルタ・クイズ・動画・ポスター・手紙・作文が示されている。

令和6年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	音楽
第1推薦	27 教芸
第2推薦	17 教出

(音楽) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
17 教出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 見開き左上に題材名は縦書きで、学習目標は横書きで示している。 児童の気付きを引き出す支援として「まなびナビ」を示している。 「歌声」のコーナーを設け、歌い方のポイントを写真・絵と文で示している。 第3学年では、リコーダー奏法に特化した学習を3回取り上げている。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年の音楽づくりでは、リズムを真似る・呼びかけてこたえろといった遊びを通して学ばせる指導過程をとっている。 音や音楽と生活との関わりについては、低学年は身近な音を使って遊ぶこと、中学年は日本と世界の音楽、第5学年は日本の音楽、第6学年はストリートピアノなど音楽と社会とのつながりに目を向ける事例にSDGsの視点を示し、著作権も扱っている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 「にっぽんのうた みんなのうた」コーナーを配置している。 鑑賞曲27曲、歌唱教材28曲、和楽器を第2学年から16種取り上げている(第3学年は無し)。 合唱は第2学年から導入し、二部合唱を取り入れ、第5学年から三部合唱を導入している。合奏曲は第2学年から導入されている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を見開き右ページ上に「音楽のもと」として、さらに資料として当該学年の〔共通事項〕の内容を、既習も含め「音楽のもと」まとめ」として示している。 〔共通事項〕に関わる紙面上のコーナー「まなびナビ(学び方を知ろう)」や、学習に対応した「まなびリンク」の二次元コードが掲載されている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 「まなびナビ(学び方を知ろう)」やそれ以外の記述部分で、「～を友達とお話しよう。」と示している。第5学年と第6学年では、各1教材「まなびナビ(学び方を知ろう)」に「学び合う音楽」とタイトルをつけ、友達と話し合う活動を含んだ学習過程を示している。
27 教芸	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 見開き左上に題材名は縦書きで、学習目標は横書きで示している。 児童の気付きを引き出す支援として、「見つける(知識)」「考える(思考力、判断力、表現力等)」「歌う、演奏する、つくる(技能)」マークを示している。 「歌声ルーム」を設け、歌い方のポイントを写真・絵と文で示している。 第3学年のリコーダー奏法の導入の題材で、ヘッドピースを使った音遊び、指番号やトーンホールのとじ方を示し、リコーダー奏法の基礎をまとめて学習できるようにしている。

観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年の音楽づくりでは、3音と5音の言葉と関連させたリズムづくりの指導過程をとっている。 ・音や音楽と生活の関わりについては、低学年は身の回りの音や鳴き声を使った音遊びや友達と歌ったり体を動かしたりする内容、中学年は地域に伝わる音楽、第5学年は音楽と社会をつなぐテクノロジーと日本の音楽、第6学年は特集を2つ設定し、音楽と社会とのつながりに目を向ける事例と著作権を別々に扱っている。さらに第3・5学年では鑑賞教材でも扱っている。
観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・「歌いつごう 日本の歌」を配置し、鑑賞曲33曲、歌唱教材25曲、和楽器は第3学年から23種取り上げている。 ・合唱は第3学年から導入され、二部合唱を中心として配列し、第5学年から三部合唱（部分三部合唱）が導入されている。 ・合奏曲は第1学年から導入している。
観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を見開き右ページ下に、さらに「ふり返りのページ」に各学年で学習した音楽を形づくっている要素を、関連するページ番号とともに示している。 ・〔共通事項〕に関わり、「考える」「見つける」「歌う」「演奏する」「つくる」マークの記述やナビゲーターのキャラクター「ムーブ」の言葉、図などで学習活動やポイントを示している。
観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の特質に応じた言語活動として、「考える」「見つける」マークにおける学習過程で、記述部分に「～を話し合しましょう。」「～につたえましょう。」等と友達と話し合う学習活動を位置づけている。

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	図画工作
第1推薦	9 開隆堂
第2推薦	116 日文

(図画工作) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
9 開隆堂	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 各題材の目標を、3種類のキャラクターと文で示し、特に重点的に育成したい資質・能力には下線を引き、色を変えて示している。 「参考」の囲みで巻末の「学びの資料」のページ番号を示し、題材に合わせて材料や用具等を活用できるよう促している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 活動のきっかけとなる文を示すとともに、二次元コードを用いて導入動画を視聴できる。 表現と鑑賞との関連を図りやすいように、表現する活動の次ページに鑑賞題材や特設ページ「小さな美術館」が紹介されている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 学年の項目において題材を5項目に分類して配列している。育てたい資質能力を軸に内容が構成されており、資質能力に合ったキャラクターが活動のポイントをアドバイスするように掲載されている。 題材数は低学年が23、中学年は22、高学年は19～20掲載されている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育の観点から、図を重ねる場合は間に線を入れて掲載している。 教科書の最下部に、学習後の振り返りの視点と、他教科との具体的な関連が、枠付きで明示されている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 共同して製作する題材や、発想や構想、鑑賞の場面で児童が関わり合う活動を取り扱っており、言語活動を促す文、児童の活動の様子が分かる写真や対話を示している。(できた作品を使って話し合う場面の写真が多い)
116 日文	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 各題材の目標を、資質・能力の3つの柱に基づいて、3種類のマークと文で示している。 高学年では、「思い出そう」の囲みで「表し方のくふう」「接着」について示し、題材に合わせてこれまでの学びを活用できるよう促している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 活動のきっかけとなる文を示している。 表現と鑑賞の関連を図りやすいように、表現する活動の前後のページに題材の内容と関連の深い美術作品を掲載した「教科書美術館」が紹介されている。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 学年の項目において題材を5項目に分類して配列している。どの題材においても、3つの資質能力を同じように育てていくように内容が構成されており、特に大切なめあてのヒントが鑑賞以外に掲載されている。 題材数は低学年が23～24、中学年は20～22、高学年は19～20掲載されている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> インクルーシブ教育の観点から、複数の実践パターンを示している。 教科書の最下部に、安全に係る留意点と片付けのポイント・他教科との関連が明示されている。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 共同して製作する題材や、発想や構想、鑑賞の場面で児童が関わり合う活動を取り扱っており、言語活動を促す文、児童の活動の様子が分かる写真や対話を示している。(友だちと話し合う活動を示す特設ページがある)

令和6年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	家庭
第1推薦	2 東書
第2推薦	9 開隆堂

(家庭) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・実生活にも役立つ問題解決的な学習を展開できるよう、題材は全て「1 見つめよう」「2 計画しよう・実践しよう」「3 生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3ステップで構成している。
	観点2	・学習指導要領「A 家族・家庭生活」の「(4) 家族・家庭生活についての課題と実践」に対応した内容を「生活を変えるチャンス！」として3か所に掲載している。
	観点3	・A4サイズ、総ページ数149、5年生8題材・6年生7題材の合計15題材で構成されている。
	観点4	・「学習内容に関係する人、職業」「伝統文化の内容」「製作計画例(実習カード)等の例示」「授業で扱うことのできる実験や実習の例」等を示している。
	観点5	・それぞれの活動の中で、二次元コードを読み込むことでワークシート、調理実習シート、トライシートをダウンロードしたり、動画を視聴したりできるようにしている。
9 開隆堂	観点1	・実生活にも役立つ問題解決的な学習を展開できるよう、題材は「1 気づく・見つける」「2 わかる・できる」「3 生かす・深める」の3ステップを基本として構成している。
	観点2	・学習指導要領「A 家族・家庭生活」の「(4) 家族・家庭生活についての課題と実践」に対応した内容を「レッツトライ!生活の課題と実せん」「生活の課題の実せん例」として2か所に掲載している。
	観点3	・A4サイズ、総ページ数153、5年生11題材・6年生9題材の合計20題材で構成されている。
	観点4	・「学習内容に関係する人、職業」「伝統文化の内容」「製作計画書等の例示」「授業で扱うことのできる実験や実習の例」等を示している。
	観点5	・それぞれの活動の中で、二次元コードを読み込むことでワークシートをダウンロードしたり、動画を視聴したりできるようにしている。

令和6年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	保健
第1推薦	2 東書
第2推薦	224 学研

(保健) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	・動機付けの後に、項目ごと「学習の課題」として質問形式の課題提示をしている。
	観点2	・全ての1単位時間の導入で、児童の気づきをもとにした「ステップ1」を設け、問題意識を高めた上で「学習の課題」を提示している。
	観点3	・発展的な学習の事例数は、第3・4学年(6)第5・6学年(16)となっている。
	観点4	・体の変化の説明は、実物(水着)とイラスト(裸体)を使用している。
	観点5	・第3・4学年では自分の考えを書く活動42、第5・6学年では自分の考えを書く活動57を設定している。
4 大日本	観点1	・動機付けの後に、項目ごとに「ここで学ぶこと」として質問形式の課題提示をしている。
	観点2	・導入の活動「つかもう」では、自分の生活をふり返ることから「課題をつかもう」を提案している。
	観点3	・発展的な学習の事例数は、第3・4学年(9)第5・6学年(16)となっている。
	観点4	・体の変化の説明は、写真、イラストともに着衣で示している。体の中の変化では裸体のイラストを使用している。
	観点5	・第3・4学年では自分の考えを書く活動20、第5・6学年では自分の考えを書く活動49を設定している。
50 大修館	観点1	・動機付けの後に、項目ごとに「きょうの課題」として質問形式の課題提示をしている。
	観点2	・各章のとびらでは、著名人を取り上げ、健康や安全についての考え方に触れることで、ステップ1の「課題をつかもう」を設定している。
	観点3	・発展的な学習の事例数は、第3・4学年(12)第5・6学年(23)となっている。
	観点4	・体の変化の説明は、写真、イラストともに着衣で示している。体の中の変化では、裸体のイラストを使用している。
	観点5	・第3・4学年では自分の考えを書く活動22、第5・6学年では自分の考えを書く活動45を設定している。
207 文教社	観点1	・項目ごとに「学習のめあて」として質問形式の課題提示をしている。
	観点2	・単元の見通しを持たせるための記述及びイラストを掲載し、自分の生活をふり返るようにしている。

	観点 3	・発展的な学習の事例数は、第 3・4 学年（5）第 5・6 学年（21）となっている。
	観点 4	・体の変化の説明は着衣のイラストのみを使用している。
	観点 5	・第 3・4 学年では自分の考えを書く活動 11、第 5・6 学年では自分の考えを書く活動 22 を設定している。
208 光文	観点 1	・項目ごとに「学習の課題」として質問形式の課題提示をしている。
	観点 2	・単元の見通しをもたせるための記述及びイラストを掲載し、自分の生活を振り返ることから学習の課題をつかむように提示している。
	観点 3	・発展的な学習の事例数は、第 3・4 学年（10）第 5・6 学年（17）となっている。
	観点 4	・体の変化の説明は、写真、イラストともに着衣で示している。体の中の変化では、簡素化された裸体のイラストを使用している。
	観点 5	・第 3・4 学年では自分の考えを書く活動 16、第 5・6 学年では自分の考えを書く活動 36 を設定している。
224 学研	観点 1	・項目ごとに「学習の課題」として質問形式の課題提示をしている。
	観点 2	・単元の見通しをもたせるための記述及び写真の掲載し、「ふり返ろう」「予想しよう」など楽しみながら、この 1 時間の学習にかかわる課題をつかむようにしている。
	観点 3	・発展的な学習に関する内容の事例数は、第 3・4 学年（10）第 5・6 学年（18）となっている。
	観点 4	・体の変化の説明は、着衣のイラストのみで示している。体の中の変化は、横向きのイラスト（シルエット）を使用している。
	観点 5	・第 3・4 学年では自分の考えを書く活動 46、第 5・6 学年では自分の考えを書く活動 82 を設定している。

令和6年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	英語
第1推薦	2 東書
第2推薦	61 啓林館

(英語) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 単元の冒頭に Our Goal として、各単元の学習目標を提示している。 文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元があり、将来したいことについて伝える紹介文を読む活動として設定している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 単元の「Your Turn」「Enjoy Communication」「Over the Horizon」において、振り返りを行う。また、年間3回の「Check Your Steps」を設定し、その活動の振り返りを行う。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 総ページ数106(5・6年とも)年間3つの小テーマで構成され8単元を設定している。総言語活動数403
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習に関連した音声や動画、アニメーション等の視聴や、ワークシートやデジタルディクショナリー等の使用がWeb上のできるコンテンツや、日本や世界について調べることができる外部につながる二次元コードを、8箇所を示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 単元終末の Enjoy Communication で、習得した知識及び技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動を設定。また、3回の Check Your Steps で、習得した知識及び技能を活用する「聞くこと」「話すこと [発表]」の活動を設定している。
9 開隆堂	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の冒頭に、GOAL として学習目標を提示している。 文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元があり、グループで、互いの行きたい国について「行きたい国クイズ」に取り組む活動を設定している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 学習した単元ごとに振り返りを行うとともに、年間3回の Let's Check を設定し、これまで学習したことについて振り返りを行う。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 総ページ数138(5・6年とも)巻頭に Let's Review (前年度の復習)、8単元を設定している。総言語活動数359
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習に関連した音声や動画、アニメーション等の視聴や、やデジタルワードブックや活動における資料等の使用がWeb上のできるコンテンツにつながる二次元コードを、5箇所を示している。

	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・単元終末の Activity や Let's Write 等で、習得した知識及び技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動を設定。また、3回の Let's Check で、「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「書くこと」の活動を設定している。
15 三省堂	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の大きな言語活動の Goal を示すとともに、各単元の冒頭に、Goal として単元における学習目標を提示している。 ・文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元があり、中学校訪問の感想について書かれた英文を読む音声を聞きながら、その英文を目で追う活動を設定している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した単元ごとに振り返りを行う。また、年間3回の大きな言語活動を設定し、その振り返りを行うとともに、それまでの単元で学習したことについて振り返りを行う。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・総ページ数 122 (5・6年とも) 全学年の復習教材を掲載 4 ページ、3部 7 単元で構成している。総言語活動数 286
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習に関連した音声や動画、アニメーション等の視聴や、ワークシートやふりかえりシート等をダウンロードできる二次元コードを 4 箇所を示している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・単元終末の Step up で、習得した知識及び技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「書くこと」の活動を設定。また、3回の大きな言語活動 JUMP で、「話すこと [発表]」の活動を設定している。
17 教出	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の冒頭に、Goal として学習目標を提示している。 ・文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元があり、就きたい職業について尋ね合い、分かったことをメモする活動を設定している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した単元ごとに4つの視点で振り返りを行う。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・総ページ数 140 (5・6年とも) 巻頭には、前年までの学習を復習する導入単元 Let's Start Together を掲載。総言語活動数 144
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・音声や動画等が Web 上で視聴できるコンテンツにつながる二次元コードを、活動ごと 7 箇所を示している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・単元終末の Final Activity で、習得した知識及び技能を活用する「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動等を設定している。
38 光村	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の冒頭に、Goal として学習目標を提示している。 ・文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元があり、将来の夢を尋ね合う活動を設定している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した単元ごとに振り返りを行う。また、3つの「まとめ」の言語活動を設定し、その振り返りを行うとともに、それまでの単元で学習したことについて振り返る。
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・総ページ数 153 (5年) 145 (6年) 巻頭に Let's Start (スタート教材) があり、年間3つのストーリー、8単元で構成されている。総言語活動数 303
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習に関連した音声や動画、アニメーション等が視聴できるコンテンツにつながる二次元コードを、5箇所を示している。

	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元終末の Jump! で、習得した知識及び技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動を設定。また、3回の「世界の友達」で、「聞くこと」「読むこと」の活動、「You can do it!」で、「話すこと」「書くこと」の活動を設定している。
61 啓林館	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各単元の冒頭に GOAL として学習目標を提示している。 ・ 文及び文構造に繰り返し触れる機会を設定した単元があり、将来の夢について、理由も加えて発表する活動を設定している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の Step ごとに振り返りを行うとともに、単元末に単元全体の振り返りを行う。
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総ページ数 152（5・6年とも）巻頭で Pre Unit を設定。年間3部8単元で構成されている。総言語活動数 288
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の学習に関連した音声や動画、アニメーション等の視聴や、単語クイズやアクティビティのヒントの使用が Web 上でできる二次元コードを、活動ごとに 15 箇所を示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元終末の Step3 で、習得した知識及び技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動を設定。また、3回の REVIEW で、習得した知識及び技能を活用する「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の活動を設定している。

令和6年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書採択に係る答申

山県教科用図書採択地区選定委員会

観点1	基礎・基本の定着
観点2	主体的に学習に取り組む工夫
観点3	内容の構成・配列・分量
観点4	内容の表現・表記
観点5	言語活動の充実

教科名	道徳
第1推薦	38 光村
第2推薦	208 光文

(道徳) 各教科書の主たる特徴及び意見

発行者名	主たる観点	主たる特徴
2 東書	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 冒頭に「どんな学びをするのかな」のページを設け、「気づく」「考える」「広げる・深める」という3つの学習の流れを示している。また、ページ下には「こんな学び方もあるよ」として、「演じて考えよう」「問題を見つけて考えよう」を示している。 発問については、教材文の後に2～4つ示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 教材の終わりに問題解決的な学習の具体的な過程を例示している。また、「演じて考えよう」のページを設け、体験的な学習の過程の例を示している。(各学年1～2例)
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 分量 AB判 146～196 ページ 教材数 A8～11 B7～9 C9～12 D6～8 いじめの問題をテーマとした2つの教材と扉ページ、いじめの問題についてのコラムという構成でユニット化した『『いじめ』についてかんがえよう』を設けている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭には、「なにを学ぶのかな?」「どんな学びをするのかな?」「ちょっと話し合ってみよう!(第2学年以上)」を示している。教材名の下にデジタルコンテンツにつながる二次元コードを示している。巻末には、「学習の記録」「考えるためのツール」のページがあり、第4学年以上に「心情円」が付いている。 「つながる・広がる」「安心・安全」「情報モラル」「いじめ」「いのち」「じぶん」についてのマークを設定している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭「どんな学びをするのかな?」や「ちょっと話し合ってみよう!」(第2学年以上)の中に話合いのポイントや話合いの様子をイラストとともに示している。 巻末に、特に心に残った教材のことや、学習を振り返って感じたことや考えたこと、これからの生活に生かしたいことを書いたりする「学習の記録」のページを設けている。
17 教出	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 冒頭に「道徳ではこんな学び方をするよ」というページを設け、「考えよう」「深めよう」「つなげよう」「今日の学習を自分で振り返ってみよう」の4つの学習の流れを示している。「考えよう」の欄には「学び方」として「話し合う・演じる・書く」の3つを示し、説明している。 発問については、冒頭と教材文の後に4～5つ示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 教材の終わりに、問題解決的な学習過程の例を示しており、目次に「解決」「かいつく」のマークで示している。また、「やってみよう」のコーナー等において、教材に関連した体験的な学習(役割演技)を促しており「体験」「たいけん」のマークで示している。(各学年3～7例)

	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 分量 AB判 161～185 ページ 教材数 A8～11 B6～10 C10～13 D4～7 いじめの問題をテーマとした2つの教材とコラムの構成でユニット化した「いじめをなくす」を設けている。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭には「道徳で学習すること」「道徳ではこんな学び方をするよ」「道徳の学習をもっと広げよう」等を示している。巻末には「学習をふり返ろう」「1年間の学習をふり返ろう」のページを設けている。 「考えよう」「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」、「問題を見つける」「解決方法を考える」「考えたことを生かす」のマークやキャラクター「マナビィ」を設定している。WEBサイトにつながるマークを設定し、二次元コードを示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の「道徳ではこんな学び方をするよ」や「道徳の学習をもっと広げよう」の中に、話し合いのポイントやデジタル機器を活用した言語活動例を示している。また、教材の終わりの「考えよう」「深めよう」「つなげよう」の中で話し合いを促している。 巻末に、心に残った教材とその理由を記述する「学習をふり返ろう」と、1年間の道徳の学習を振り返って記入する「1年間の学習をふり返ろう」のページを設けている。
38 光村	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年以上の最初の教材文の下に「道徳の学び方」を記載し、「考えたいことに気づく」「よりよい生き方について考える」「学んだことをつなげる」の3つの学習の流れを示している。話し合いについて第1学年は5つのポイントを、第2学年以上は3つのコツを示している。 発問については、冒頭と教材文の後に3～4つ示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> 教材の終わりに問題解決的な学習の過程の例を示している。また、「演じて考えよう」のページを設け、直前の教材に関連した体験的な学習（役割演技）を促している。（各学年1例ずつ）
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> 分量 B5判変型 135～215 ページ 教材数 A8～10 B8～9 C9～11 D5～7 いじめの問題をテーマとした2つの教材とコラムの構成でユニット化した「いじめを許さない心」を設けている。一つ目の教材の冒頭に、ユニットを貫く問いを配置している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> 目次の前に詩を掲載している。第2学年以上は「みんなで気持ちよく話し合うためのコツ」「道徳みちあんない」を示し、巻末には、「学びの記録」、考える方法を紹介する「学びの工具箱」等を設定している。 「コラム」「心を通わせよう」「考える準備たいそう」「考えよう・話し合おう」「つなげよう」などのマークやキャラクター「こころん」「きらりん」「もやりん」を設定している。教材名の下にデジタルコンテンツにつながる二次元コードを示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の「みんなで気持ちよく話し合うためのコツ」で、話し合いの具体的な例やポイントを示している。また、教材の終わりの「考えよう・話し合おう・つなげよう」や「考えるヒント」、「『考える』準備たいそう」の中に、話し合いを促したり、話し合い活動につながるヒントを示したりしている。 巻末に、授業で考えたことを記入したり、3つの観点（自己を見つめる、多面的・多角的に考える・自己の生き方への考えを深める）について振り返ったりする、「学びの記録」の欄を設けている。
116 日文	観点1	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭に「道徳の学び方」というページを設け、「気づく」「考える・深める」「見つめる・生かす」の3つの学習の流れを示している。「考える・深める」方法として、「話し合い」「体験的な学習」「書く活動」を紹介し、それぞれの説明を動画で確認できるようになっている。 発問については、教材文の前後に3つ示している。

	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぐっと深める」のページにおいて問題解決学習の過程の例を示している。また、直前の教材に関連した体験的な学習（役割演技）を促している。（各学年 2～3 例）
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 AB判 154～194 ページ（別冊：AB判 46 ページ） ・教材数 A9～11 B8～10 C12～13 D5～6 ・別冊「道徳ノート」が付いており、教材ごとに自分の考えを書くようになっている。 ・いじめの問題をテーマとした複数の教材とコラムの構成でユニット化した「人との関わり②（いじめをなくすために）」を設けている。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には「道徳のとびら」「道徳の学び方」、別冊「道徳ノート」目次の下には「道徳ノート」の使い方を示している。教科書巻末には「見つけた！ここにも道徳」があり、別冊巻末には、このページを見ながら今までの学習とのつながりを考えて書くページを設けている。 ・二次元コードや「考えてみよう」等のマークは全学年に、「SDGs で考えよう」のマークは 3 年生以上に設定している。キャラクターは、「ココロウ」「あおい」「そうた」「ほのか」「えいと」を設定している。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の学び方」の「考える・深める」の中に、話し合いのポイントや具体的な状況を写真や二次元コードとともに示している。また、教材の終わりの「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」の中で、話し合いを促している。 ・別冊「道徳ノート」に、学習を 3 つの観点（自己を見つめる、多面的・多角的に考える・自己の生き方への理解を深める）で振り返り、自己評価をマークで描く欄を設けている。巻末には、振り返りのページを設け、道徳の学習で学んだことが記入できるようになっている。
208 光文	観点 1	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭に「道徳の時間は、こんな時間です」というページを設け、「問いを見つけよう」「考えよう」「まとめよう・ふりかえろう」「ひろげよう・つなげよう」の 4 つの学習の流れを示している。「考えよう」「まとめよう・ふりかえろう」について 4 ページにわたって具体的に説明している。 ・発問については、冒頭と教材文の後に 5 つ示している。
	観点 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の終わりに問題解決的な学習の過程の例を示している。また、「みんなで作ってみよう！」のコラムを設け、直前の教材にも関連する実際の問題場面を想定した体験的な学習を促す教材を掲載している。（各学年 1 例ずつ）
	観点 3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 AB判 162～194 ページ ・教材数 A8～11 B8～11 C12～15 D7～9 ・いじめの問題をテーマとした 2 つの教材と扉ページの構成でユニット化した「いじめを生まない心」を設けている。扉ページにユニットを貫く問いを配置している。
	観点 4	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭「道徳の時間は、こんな時間です」において、「問いを見つけよう」「考えよう」等を示している。巻末には、詩を紹介する「ことばのたからもの」、授業記録が書ける「学びの足あと」を設けている。 ・「かんがえよう」「まとめよう」「ひろげよう」のマークや、キャラクター「みらいさん」「ゆたかさん」「ドーミン」を設定している。Web サイトにつながる二次元コードが示されている教材がある。
	観点 5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の時間は、こんな時間です」の中に、話し合いのポイントを示している。また、教材の終わりの「ひろげよう」の中で話し合いを促す発問を示している。 ・巻末に、学習した日付、教材番号、授業後の心の動き、学びを振り返る「学びの足あと」の欄を設けている。また「まとめ」の欄もあり、学期末に、道徳で学んだことを振り返って記入できるようになっている。

224 学研	観点1	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「道徳の学習が始まるよ」というページを設け、中学年は「お話をもとに考えよう」「話し合い高め合おう」「自分を見つめ深めよう」、高学年は「見つめよう」「考えよう」「生かそう」のそれぞれ3つの学習の流れを示している。また、話し合い・体験的な学習・書く活動を示している。 ・発問は、教材文の後ろに1～2つ示している。
	観点2	<ul style="list-style-type: none"> ・「深めよう」のページにおいて、問題解決的な学習の過程の例を示している。直前の教材に関連した体験的な学習（役割演技）を促している。（各学年1例ずつ）
	観点3	<ul style="list-style-type: none"> ・分量 AB判 142～170 ページ ・教材数 A9～12 B8～9 C9～11 D6～8 ・いじめの問題をテーマとした複数の内容項目の教材を特設ページとともに配置している。
	観点4	<ul style="list-style-type: none"> ・目次の前に詩を掲載し、「つながる私 広がる私」「道徳の学習が始まるよ」等を設けている。巻末には学習の振り返り等が書ける「つなげよう 広げよう」を設けている。 ・「いのち」「みんなで」「みらいへ」をマークで示し、内容項目が異なる2教材を連続して学ぶユニット教材に添えている。「心のパスポート」「深めよう」のマークやキャラクター「明日香」「未来」を設定している。WEBサイトにつながる二次元コードを示している。
	観点5	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の中に、話し合いのポイントを示している。また「心のパスポート」の中で教材における話し合いを促している。 ・巻末に、道徳の学習を通して、心に残った言葉・話・次の学年になる自分へのメッセージを記入し、1年間を振り返る「つなげよう 広げよう」のページを設けている。